

# 令和2年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立図書館 (千代田図書館、日比谷図書館文化館、 四番町図書館、昌平まちかど図書館、 神田まちかど図書館)	所在地	【千代田】千代田区九段南1-2-1 【日比谷】千代田区日比谷公園1-4 【四番町】千代田区三番町14-7 【昌平まちかど】千代田区外神田3-4-7 【神田まちかど】千代田区神田司町2-16
-----	---	-----	--

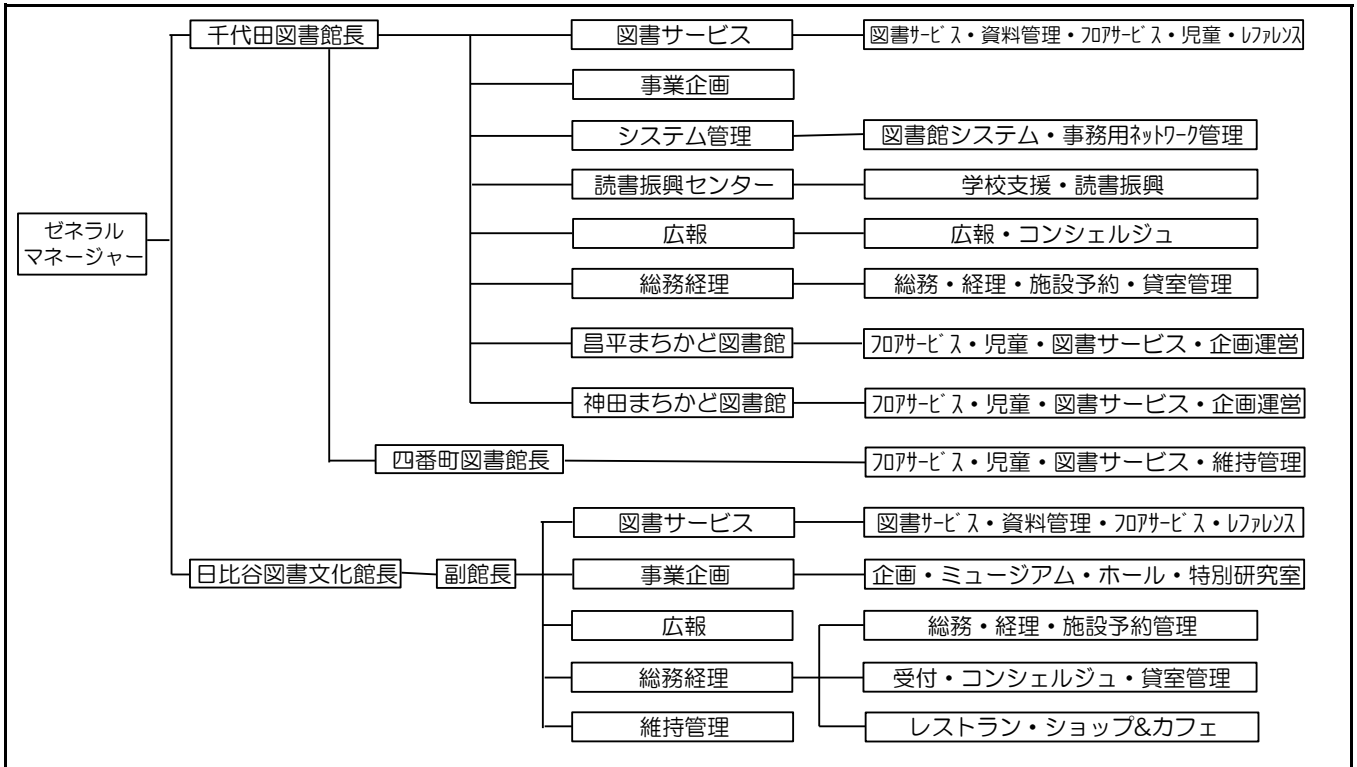
## 1 指定管理者の概要

名称	千代田ルネッサンスグループ	代表者	株式会社集英社プロダクション 代表取締役 都築 伸一郎 構成企業：株式会社ヴィアックス 代表取締役 小川 巧次 ：株式会社図書館流通センター 代表取締役 細川 博史 ：カトリックパブリシティサービス株式会社 代表取締役 間野 文祥 ：株式会社シェアード・ビジョン 代表取締役 菅谷 彰 ：大星ビル管理株式会社 代表取締役 寺島 剛紀	
所在地	千代田区神田神保町2-30			
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	報告期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	

## 2 管理施設の概要

施設の目的	区立図書館の伝統と新しい行政に取り組む千代田区の特徴を生かし、文化情報資源の総合センターとしての役割を担い、基本的な図書館サービスの拡充や区民の生涯学習に資するとともに、新たな事業やサービスを積極的に展開し、公共図書館の将来像を全国に発信していく。
管理業務の内容	(1) 図書館の利用に関する業務 (2) 図書館の事業の実施に関する業務 (3) その他、館の運営に関し必要と認める業務

## 3 管理体制の状況



## 4 事業実績等

### (1) 来館者数

	千代田図書館	日比谷図書館文化館	四番町図書館	昌平まちかど図書館	神田まちかど図書館
令和2年度	204,121人	249,202人	115,533人	45,095人	65,307人
令和元年度	567,791人	702,565人	209,955人	88,896人	154,066人
平成30年度	587,151人	761,301人	266,505人	101,341人	166,294人

### (2) 図書館業務 (令和2年度)

施設名	登録者数	蔵書数	貸出数 (団体貸出を含む)	レファレンス受付件数	データベース利用件数
千代田図書館	22,436人	211,972点	202,403点	5,187件	4,042件
日比谷図書館文化館	24,264人	226,492点	117,522点	2,019件	1,733件
四番町図書館	6,836人	88,736点	166,682点	671件	0件
昌平まちかど図書館	2,584人	29,376点	49,877点	-	-
神田まちかど図書館	4,254人	29,115点	91,923点	-	-

## 5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料（図書館事業運営）	797,562,000円	人件費	530,291,719円
指定管理料（学校図書館等司書派遣）	60,627,000円	資料費	82,077,003円
研修室、会議室、ホール使用料	9,386,664円	システム運営費	3,107,094円
レストラン・ショップ&カフェ販売料等	26,624,971円	広報費	14,352,189円
日比谷カレッジ受講料	1,361,500円	一般運営費	53,520,423円
特別研究席利用料・日比谷ラボラトリー売上	688,500円	維持管理費	145,251,634円
特別展示室入場料	2,639,200円	一般管理費	20,370,370円
コピーサービス利用料等	1,922,950円	事業費	106,688,531円
雇用調整助成金	312,549円	合計（②）	955,658,963円
損失費用補填額	54,504,015円		
合計（①）	955,629,349円		
収支差額（①－②）	-29,614円		

## 6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、閲覧席の座席数50%以内での開館が約6割、70%以内での開館が約2割、休館が約2割という年間を通じて非常事態対応の運営となり、数値実績は大幅減少となった。しかし、実質的な開館日数の減少や開館時間の短縮割合に比較すると、ほぼすべてに近い項目でその割合を超える実績となったのは、区及び所管課からの情報提供と迅速な方針決定に負うところが大きい。利用者への告知をはじめとして、館内のアクリル板等の設置、座席数の変更に伴う表示変更、手指消毒・検温・マスク着用・氏名連絡先記入のお願い、貸室・イベントにおける注意喚起や変更連絡・相談、展示の期間変更や連携先との調整等、平常時と異なる業務を確実に行うことができた。</p> <p>こうした状況下において、図書館が利用できない方からのレファレンス希望や電子図書（Web図書館）のニーズが高まり、千代田区立図書館はこの傾向に少なからず対応できたと考えている。また、貸出数の落ち込みが比較的緩やかとなった一因として、外出せずに家の中で読書・仕事をする人の割合が増えたことのほか、企画展示のクオリティ向上により、展示資料貸出数が増えたことによるものと考えている。</p> <p>全般として、来館者調査による利用者満足度が95%前後、職員対応への満足度も95%を超えており、千代田区立図書館の運営クオリティがコロナ禍にあって低低下していないことは明らかである。今後は平常時に戻った時への準備を確実に進めようと考えている。</p>	<p>【収入】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館や閉館時間の繰り上げに伴う貸施設の夜間利用中止、日比谷カレッジ及びイベントの中止、特別研究席の2時間利用制限、レストラン・ショップ&amp;カフェの営業中止などの影響で事業収入は予算の2割～3割程度に落ち込んだ。特別展はコロナ禍の制限の中でも入場者数は順調で、入場料収入の予算は確保できたほか、休館や時短営業等の補填として、国の雇用調整助成金と区からの補填を受けた。</p> <p>【支出】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を大幅に縮小し、収入は7割～8割減となったのに対し、事業費は2割強程度の削減にとどまった。感染防止対策費（消毒液などの消耗品、検温器や飛沫防止用のアクリル板などの設置等）は予算化されていない経費の支出ではあったが、区からの補填を充当して対応した。</p> <p>資料費に関しては、①ニーズが増加したWeb図書館のデジタルコンテンツを増やしたこと、②仮施設への移転に伴い四番町図書館の資料を積極的に買い替えたこと、③コロナ禍による学校図書館閉鎖を考慮して学校併設の両まちかど図書館の児童書を充実させたことにより予算超過したため、収支の差額は-29,614円となった。</p>

## 7 区としての評価・今後の方向性

<p>令和2年度の区立図書館の入館者数は、約67万9千人（千代田図書館 約20万4千人、日比谷図書文化館 約24万9千人、四番町図書館 約11万6千人、昌平まちかど図書館 約4万5千人、神田まちかど図書館 約6万5千人）で、前年度と比較すると約104万4千人の減少となった。大幅な減少の要因は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館及び開館時間短縮、一部サービスの休止によるものである。</p> <p>従来のサービス提供が困難な状況下においては、千代田Web図書館での貸出や電話・メールによるレファレンスなど、来館不要のサービスへのニーズが高まっており、Webコンテンツの充実や職員のレファレンス能力の向上が望まれる。</p> <p>四番町図書館は、令和2年4月から仮施設での運営が開始されており、フロア面積は以前より小さいものの、工夫して運営が行われている。おはなし会等イベントの実施にも様々な配慮が必要となる状況ではあるが、児童向けサービスの拠点館として、可能な限り児童向けサービスを継続できるよう努めていただきたい。</p> <p>令和3年度は、引き続き、新型コロナウイルスの感染状況等に応じてサービスの内容や事業実施方法を見直すとともに、図書館利用者やイベント参加者等に対しても注意喚起を行うなど、区の方針に基づき、徹底した感染防止対策を講じた上で図書館サービスを提供していくよう要請する。</p> <p>また、5年間の指定管理期間の最終年度でもあるため、これまでの運営実績を踏まえ、区立図書館5館が一体となって、より一層の運営体制の強化と図書館サービスの向上に努めていただきたい。</p>
---